※令和４年度以降入学生用

学校番号	404

令和５年度　美術科

教科	美術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「美術１」　（光村図書）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・感じ取ったことから考える「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」、感じ取ったこと・目的や機能から考える「映像メディア表現」と「鑑賞」の分野について学習します。
・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現方式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を「鑑賞」で共有すると、また更に見方が広がったり深まったりします。

２　学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。
（a）対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫しながら身につけ、創造的に表すことができるようにする。　(b）造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。　(c）主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく情操を培う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	造形的な視点を豊かにするための知識を理解している。創造的な表現をするために必要な技能を身につけている。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成している。創造的な表現の構想を練り、意図に応じて表現方法を工夫している。美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、その良さや美しさを創造的に味わっている。	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や創造活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	色彩構成	・色鉛筆を用いて、色彩効果を学ぶ。色彩の体系を理解して、思い通りに混色、配色ができるようになる。	a:色彩の効果について正しく理解し活用している b:主題に見合った効果的な配色を工夫し表現できている C：より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	学習プリント 取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り
	油彩「静物画」	・二点透視図法を学ぶ。 ・画面の大きさに見合った構図やバランスのとれた配置を学ぶ。 ・油絵具の扱いに慣れる。 ・塗り重ねやグラデーションの技法を学ぶ。 ・質感の表現を学ぶ。 ・合評会	a: 二点透視図法を理解し正確な形を描けている 油絵具の特性について理解し作品を制作できている b:モチーフの特徴を感じ取り、質感の表現を工夫している それぞれの作品の良さを感じ取ることができている c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品 合評会	取組状況 振り返り
	デザイン「ロゴマーク」	・意図と伝達効果の視点からデザインを理解する。 ・自分の名前をロゴデザインし、色鉛筆で着彩する。	a:色彩や形態の視覚効果について正しく理解し活用している b:主題に見合った効果的な配色を工夫し表現できている C：より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	学習プリント 取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り
2	メディア表現	・現代アートやメディアによる発信について触れ、制作意図やその表現方法の可能性について考える	a:芸術が人々の心に与える効果について正しく理解している b:主題に見合った表現を工夫しアイディアに反映できている C：深い考察をもとにしてアイディアを出している	学習プリント 取組状況 提出物	提出物	取組状況 振り返り
	鉛筆デッサン基礎	・形のとり方やタッチのつけ方など、鉛筆デッサンの基礎を学ぶ。 ・石膏レリーフ（面取り）のデッサンを通して、明暗を捉えて立体感を表現する技術を身につける。 ・自画像デッサンを通して、顔の立体感や形状、線の流れを捉えて表現する技術を身につける。 ・合評会	a:鉛筆デッサンの技法を学び、表現に合った鉛筆を使うことができる モチーフの形態や特徴を観察し正確に描くことができる b:タッチの強弱や粗密を工夫しながらモチーフの質感や立体感を表現している c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	学習プリント 取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り

※令和４年度以降入学生用

	油彩「顔」	・「自画像」または「タレントの顔」を油絵で描く。 ・これまで学んだ知識や技術をすべて使って、力強くかつ繊細に描く。 ・画面構成、立体感、細部の表現、肌や髪の質感、色の深みや奥行きなどをじっくりと描き出す。 ・合評会	a:対象をよく観察し正確な形を捉えて描くことができる 混色や塗り重ねで意図した色を作り出すことができる b:人物の特徴や内面性を表現し描き出す工夫をしている c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品 合評会	取組状況 振り返り
3	油彩「三面図」	・煮干を油絵で写実的に表現し、三面図を作成する。 ・形状や色彩を把握する。	a:対象をよく観察し正確な形を捉えて描くことができる 混色や塗り重ねで意図した色を作り出すことができる b:個体の繊細な色みや特徴を表現できている c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品	取組状況 振り返り
	彫塑「煮干しマグネット」	・煮干しの形状を立体的に把握し、木彫で再現する。 ・用途に合った適切な道具を選び、安全に扱って作品を制作する。 ・アクリル絵具の特性を理解する。 ・個体の細部の色味を感じ取りながら、忠実に再現し着彩する。	a: 木彫の技法を学び、表現に合った道具を使うことができる 対象をよく観察し正確な形を掘ることができる b: 個体の複雑な形状の変化を再現し、繊細な色みや特徴を表現できている c: より良い作品作りのために試行錯誤し努力している	取組状況 提出作品	提出作品 合評会	取組状況 振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度